

K

「楓の風」らしい看護の取り組みを発信



在宅療養支援

楓の風

KAEDE TIMES 2025

在宅生活を支援するー私たちの試行錯誤



ー在宅を支える全てのみなさまへー

私たち、「楓の風」スタッフが、どのような想いで在宅支援をしているのかを、一人でも多くの方に知っていただきたい！と思い、

「楓の風」らしい取り組みをご紹介します、ニュースレターをはじめました！



Case 6

2025 Vol.6

高次脳障害を抱える方の支援では、ご本人の症状だけでなく、**ご家族の複雑な背景や心理的負担**を理解することが欠かせません。拒否や混乱の裏には「安心したい」「守られたい」という思いが潜んでいます。今回の事例では、**根気強い関わりと多職種連携**により、拒否から治療再開、そして**穏やかなご家族との日常を取り戻す**きっかけを作ることができました。

ケース

高次脳機能障害をきっかけに失われた家族との関係

脳腫瘍の治療を受けたBさんは、高次脳障害が進行し治療を中断。暴力もあり、妻と子どもたちはホテルやシェルターに避難せざるを得ない状況に…。家庭は混乱し、本人も「もう治療はしない」「なにもしなくていい」と自暴自棄な状態でした。

「家族との関係性の悪化から、他者との関わりを拒否。訪問してもドアがあかないことも…」

訪問当初、ドアは開かず拒否が続きました。

それでも看護師は声を届け続け、「**お子さんや奥さんのために治療を受けてみませんか**」と根気強く語りかけました。

奥様とも連絡を取り合いながら、本人の気持ちが動く瞬間を待ち続けました。

具体的な関わりとケアの工夫

- ・拒否が続いても訪問を重ね、**安心感を積み上げた**
- ・**主治医・区の担当と連携**し、入院環境を整えた
- ・妻と協働し、本人が「**妻と一緒に病院に行く**」と語った瞬間を逃さず受診へ
- ・入院直後は拒否的だったが、落ち着くと**自ら「治療がしたい」と希望**
- ・治療再開後は、**穏やかな性格を取り戻し、家族とも過ごせるようになった**



看護介入が孤立支援の起点になることも

訪問看護の**粘り強い関わり**が、拒否から再開への転機を生みました。Bさんは現在、家族とキャンプを楽しむまでに回復しています。

病院の連携看護師からも「**大変な患者さんをありがとうございます**」と感謝のお言葉をいただくことができました。

在宅を支える存在でありたいという楓の風の思いが、ご本人だけでなく、**家族の絆を取り戻すきっかけ**になったのは喜びです！

